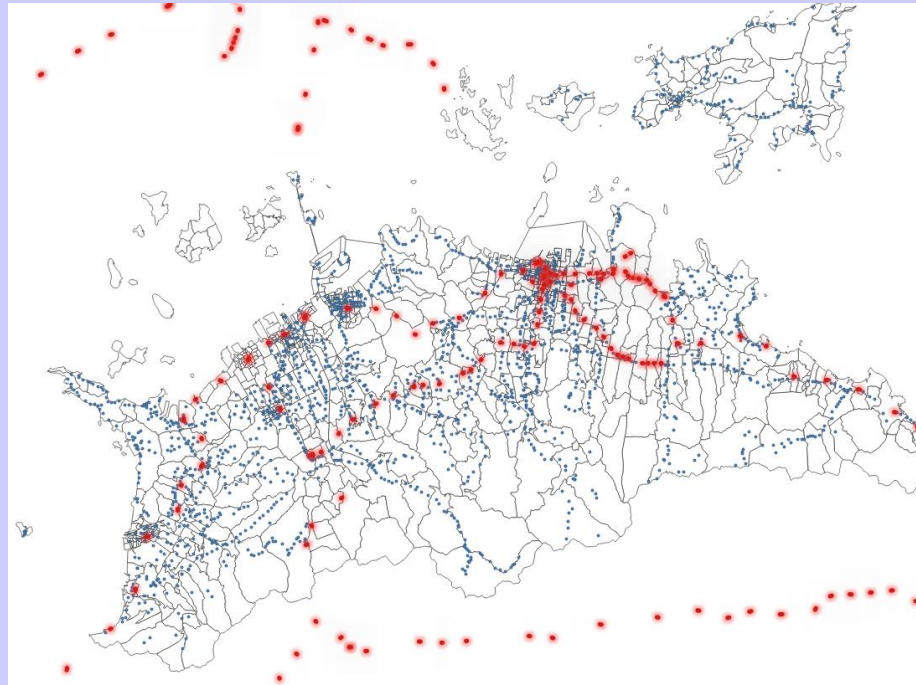


公共交通“空白地域”と人口動態



香川県土木部住宅課

1. 公共交通“空白地域” と 住まう場所

○空白地域の捉え方

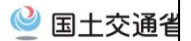
駅やバス停から一定の距離を越えた地域が、地域公共交通の空白地域になります。都市と地方では、この「一定の距離」の捉え方にも幅が見られます。交通機関が充実している都市では、駅から半径500m以上、バス停から半径300m以上が空白地域として捉えられていることが多いようですが、地方では、駅から半径1,000m以上、バス停から半径500m以上を空白地域と捉える場合も見られます。～略～

出典：「地域公共交通づくりハンドブック（国土交通省）」

政府は、移動の足である地域交通の確保を強力に進める意識があるものの、人口減少に伴う地域交通機能の減少は、地域住民にとって、“住まう場所”を考えざるを得ない状況となる。

空白地域・人口動態の可視化

「地域交通は地方創生の基盤である。」



石破内閣総理大臣所信表明演説(令和6年10月4日・抜粋)



五 地方を守る
(地方創生)

「地方こそ成長の主役」です。地方創生をめぐる、これまでの成果と反省を活かし、地方創生2.0として再起動させます。～略～

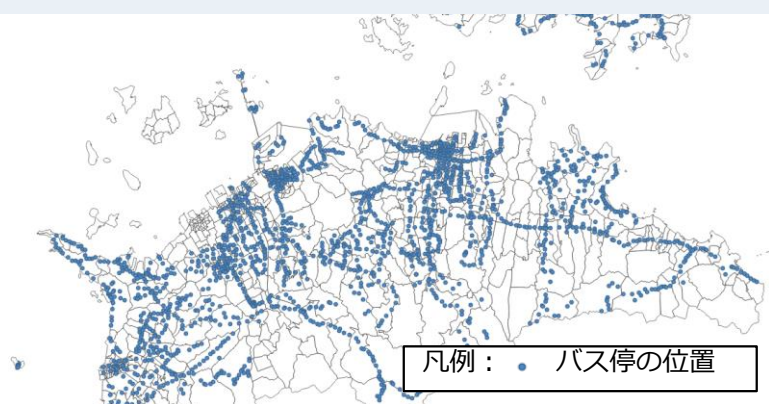
**地域交通は地方創生の基盤です。
全国で「交通空白」の解消に向け、移動の足の確保を強力に進めます。**

出典：総合政策局地域交通課「『交通空白』解消・官民連携PF/共創モデル実証事業について」

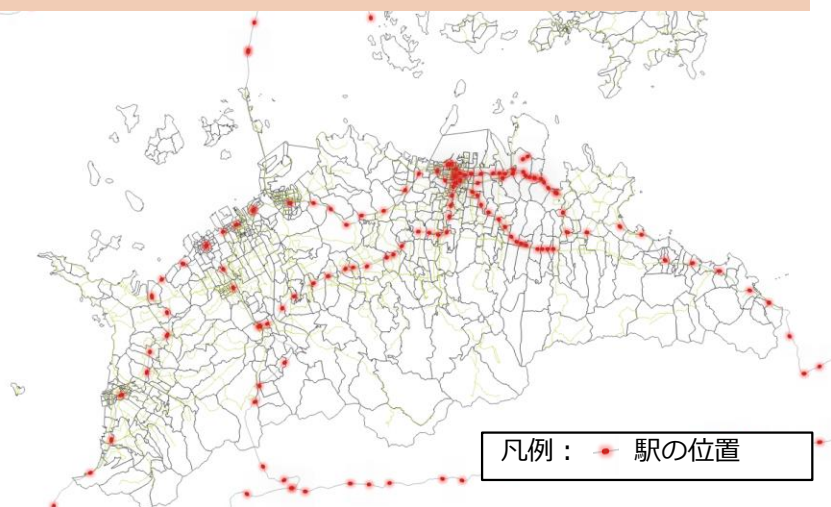
2.公共交通機関の施設及び“空白地域”

バス停・鉄道の駅のshpを落とし込み、バッファを設定

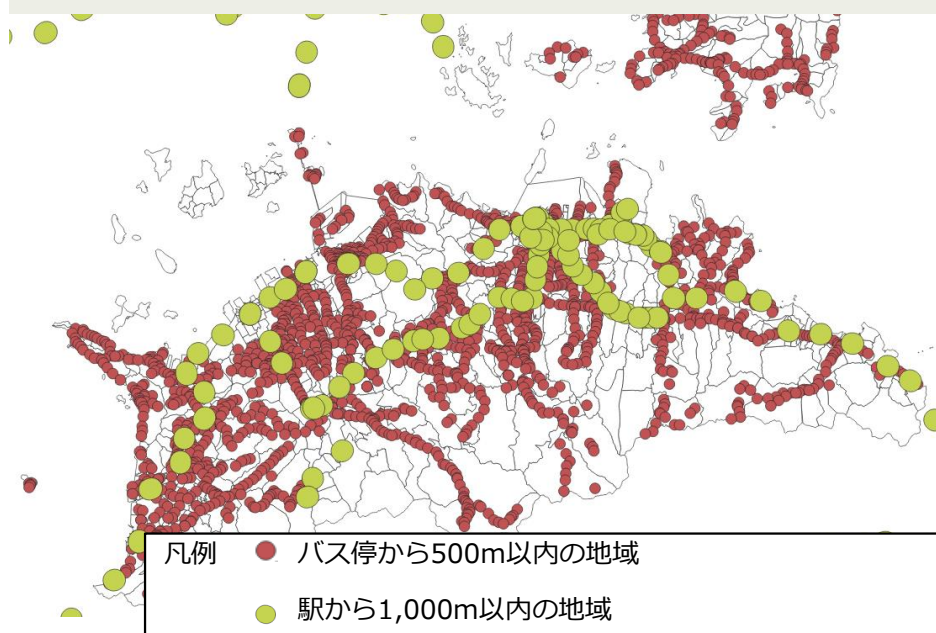
県内のバス停位置



県内の鉄道路線及び駅的位置



“空白地域”を可視化

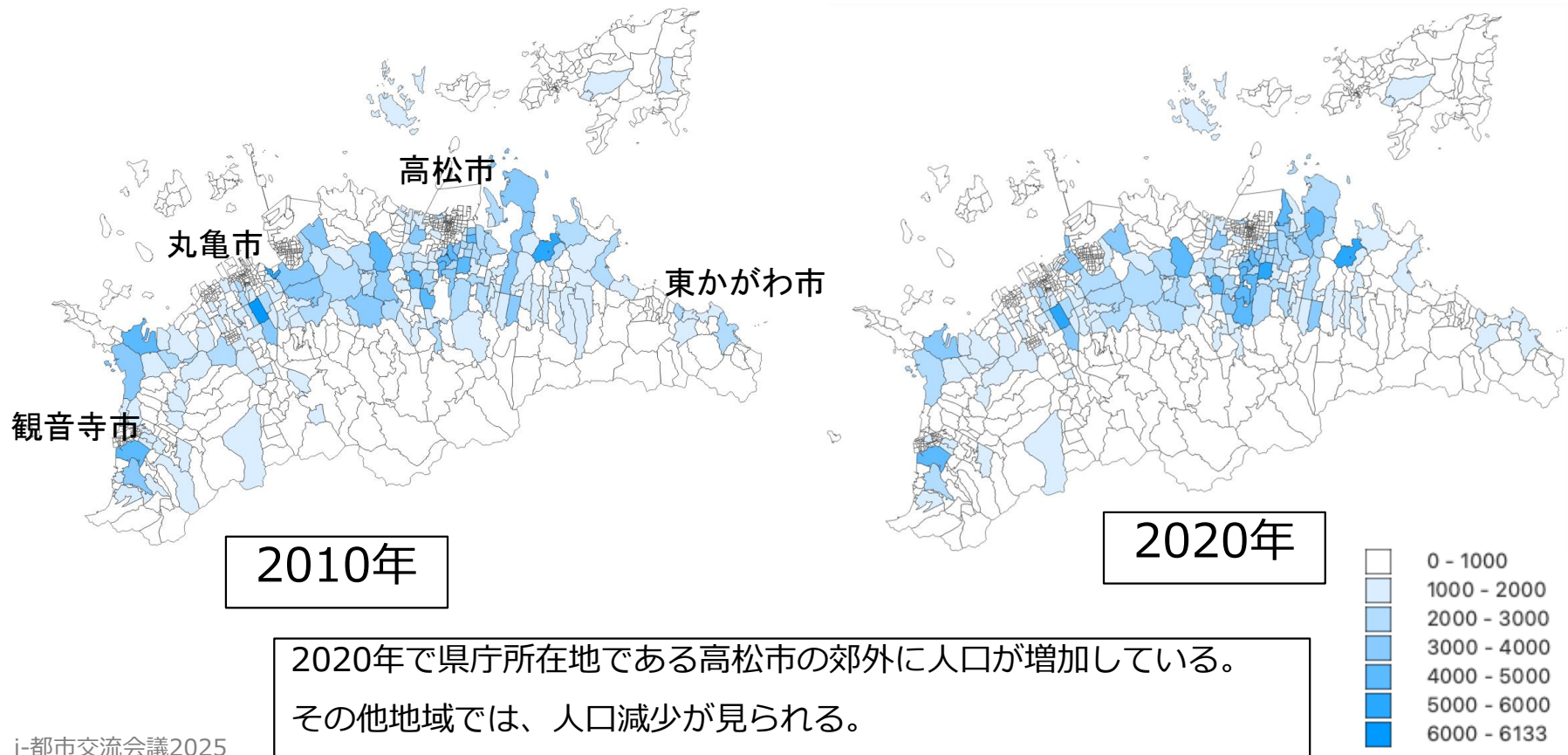


県内の鉄道及びバス停の一定距離を視覚的に表現し、公共交通“空白地域”を可視化

3.香川県の人口動態 ①

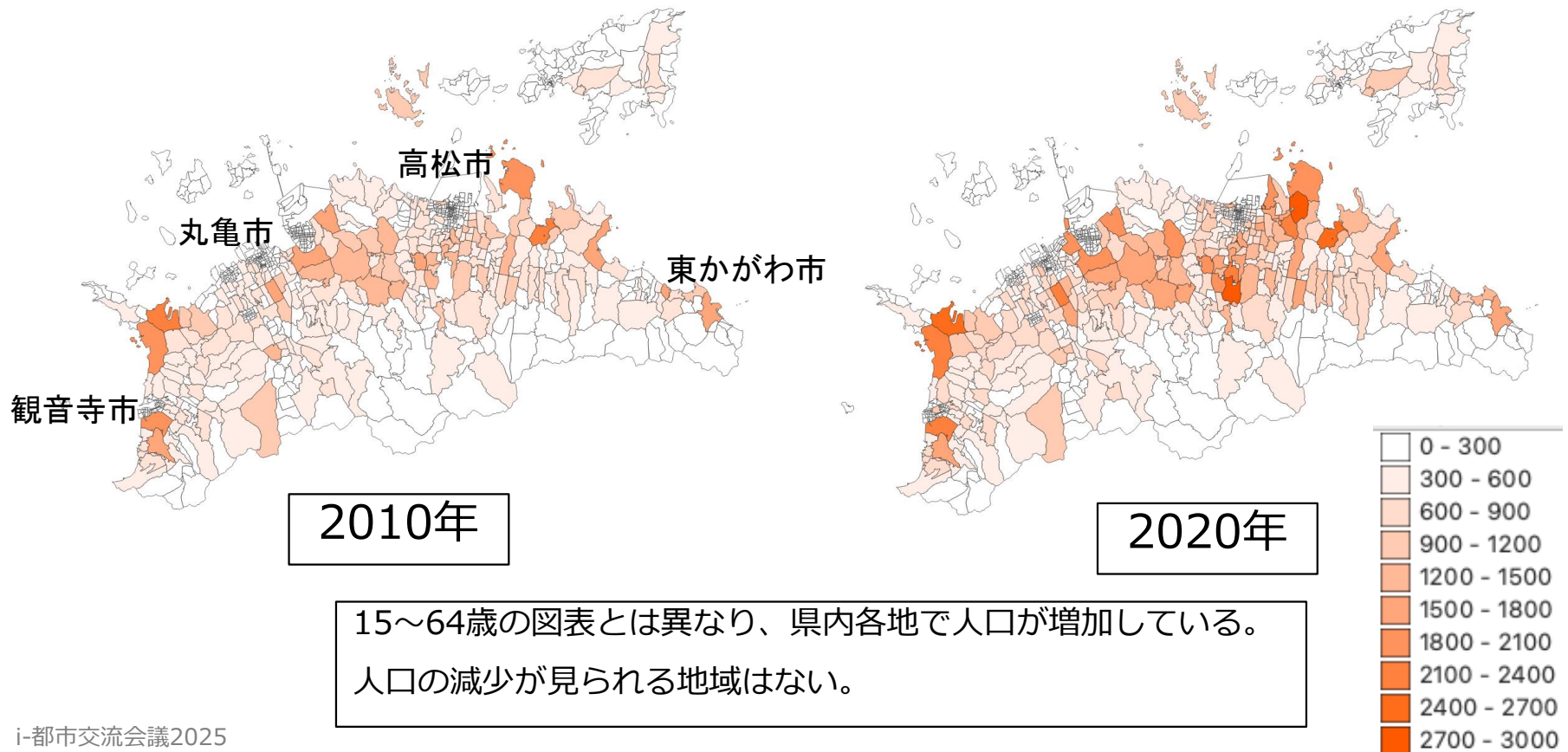
年代別の人口動態を確認するため、2カ年の人口の可視化

2010年及び2020年における地域別15歳～64歳の人口（単位：人数）



4.香川県の人口動態 ②

2010年及び2020年における地域別65歳以上の人口（単位：人数）

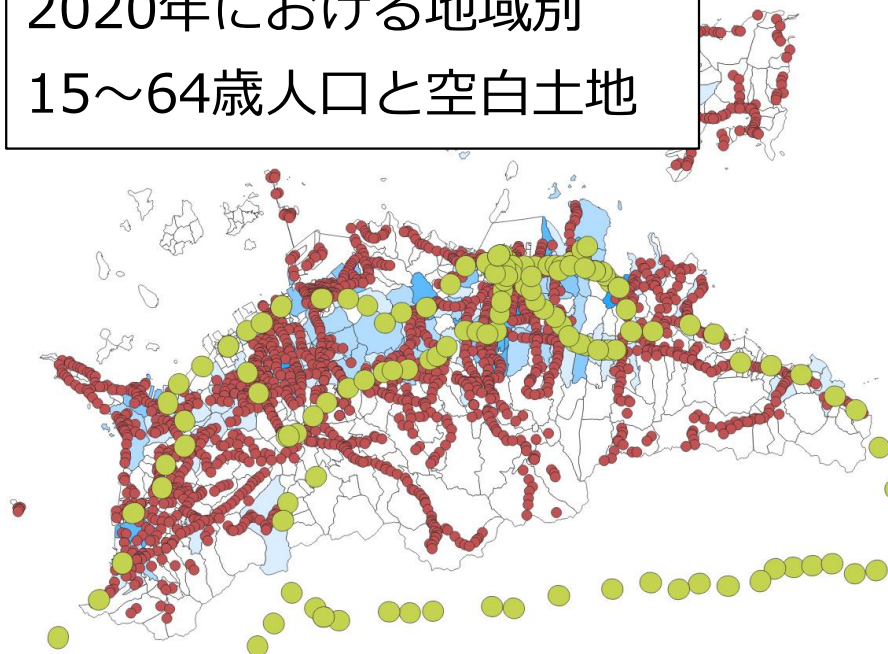


5. 人口動態から見る住まう場所と公共交通機関について

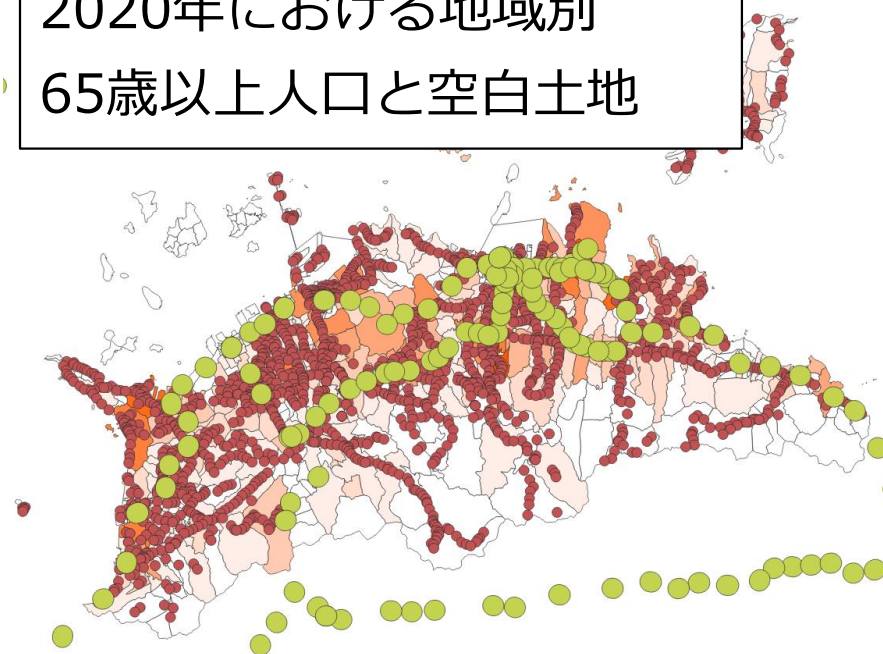
高齢者にとって、現在の公共交通機関は必要な足であることが推測できる。しかし、今後、15～64歳の住人が生活圏を現時点の位置から移動しない場合、交通機関の利用状況に応じて廃線等の検討がされることが簡単に類推することができることから、住まう場所の検討が必要になる。

都市計画や生活の足（乗合タクシーなど）の検討に有効な情報となり得ると考える。

2020年における地域別
15～64歳人口と空白土地



2020年における地域別
65歳以上人口と空白土地



6.出典

- 「地域公共交通づくりハンドブック（国土交通省）」
<https://www.mlit.go.jp/common/000036945.pdf>
- 「『交通空白』解消・官民連携PF/共創モデル実証事業について」
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/content/001855974.pdf>
- 年齢（5歳階級、4区分）別、男女別人口 及び 境界 GISデータ
<https://www.e-stat.go.jp>
- 鉄道及びバス停 GISデータ
<https://nlftp.mlit.go.jp>



新県立体育館
あなぶきアリーナ香川（香川県立アリーナ）は2025年2月24日開業します。